



2015  
平成27年

7

# きずな

K I Z U N A



特集  
テーマ

多文化共生

多様性が育む 豊かなまち



- 2 「逆境を糧に、夢を追いかける」  
サヘル・ローズさん(俳優)
- 3 県内の在留外国人の居留状況
- 4 「人、木石にあらねば」  
宮島 喬さん(お茶の水女子大学 名誉教授)
- 5 「違いを認め、互いの人権を尊重することの大切さ」  
にしゃんたさん(羽衣国際大学現代社会学部 教授)
- 6 「外国人住民の自立を支援」  
NPO法人 にほんご豊岡あいうえお(豊岡市)
- 7 「性同一性障害への理解を深める」  
中塚幹也さん(岡山大学大学院保健学研究科 教授)
- 8 情報ぷらざ



兵庫県マスコット  
はばタン

兵庫県・(公財)兵庫県人権啓発協会

# 逆境を糧に、 夢を追いかける

俳優  
サヘル・ローズさん

映画や舞台、バラエティ番組などで活躍されているサヘル・ローズさん。いつも穏やかで明るい笑顔が印象的ですが、幼少期を児童養護施設で過ごすなど、さまざまな苦難を乗り越え、今に至ります。

**児童養護施設の生活で印象に残っていることは。**

3年間を児童養護施設で過ごし、その生活は、きつとあの時の私には安心感半分、寂しさ半分だったのではないかと思います。

危険を回避できて、一応ご飯もあるけれど、大事な親や家族からの『愛情』は満足に受けられたとはいえません。

その当時の私はいつも他の仲間たちの面倒をみるなど、誰よりも姉御肌だったと聞いています。忘れられないのは、食事の時です。どんなに仲がいい仲間でも、あの瞬間は相手を払い除けてでも「ご飯を取り合おう。たまに出るポテトチップスやお菓子類は特に。立場が弱い子たちは、ポケットに食べ物

を隠しては隠れて食べていた、そんな時がありました。

**どうして来日するようになった?**

1993(平成5)年8月、養母と共に日本へ。きつと運命だったと今は強く感じます。4歳で生活する場を無くしてから、児童養護施設へ入りましたが、3年後、今の養母が、私を養子として引き取ってくれたのです。

しかし、当時のイランでは、女性一人で子育てができる環境ではなかったのと、親の反対を押し切ったので養子縁組だったため、養母は居場所をなくしてしまいました。そんな時、知人を頼って日本へ行く機会があり、現在に至っています。

**俳優としての心がけていることは。**

感謝の気持ちを持って仕事をすること。そして原点を毎日思い出すことです。生きられたのは、そして今があるのは、周りがあってこそ。事務所の社長にも「私が勘違いして、天狗になったときにはビンタをお願いします」と伝えていきます(笑)。

**将来の夢を教えてください。**

大きく二つあります。たとえ笑われても、胸を張って言います。

一つは、オスカー像をとって、養母である「世界一の母」へ渡したいです。母が私の為にしてくれた事への恩返しです。世界のステージで、母へ『ありがとう』の気持ちを伝える事で、世界中にいる孤児や児童養護施設の子どもたちに、より関心を持ってもらいたい。そして血縁関係でなくても、心と心が芯から繋がることで、普通の親子以上に愛することも可能だと、世界中に伝えられる人になりたいです。

二つめの目標は、故郷のイランに、児童養護施設「サヘルの家」をつくる事です。子どもたちに「生まれてきて良かった」と思ってもらえるような施設にしたいです。ちゃんと地に足をつけて、地に根を張って生きて欲しいって思っています。

自分のために生きるより、誰かのために生きられる人でいられるのが、私の理想です。

**読者の皆さんにメッセージを。**

皆さんは「いま」を生きていますか？

良かったら今から意識を一つ変えてみませんか？明日をなるべく考えずに、今を見る。

伝えたい言葉や発信したい事を今日中に伝えたり、したい事についてプランを立てたり、会いたい方に会いに行ったりする。真剣に生きる事で、平和に慣れてしまう事がなくなる気がします。当たり前が、当たり前じゃない人達がたくさんいる事も知って欲しいです。

そういう問題点にも気付いてもらえたら嬉しいです。知ろうとする事から、物事は動き始めます。どうか、第一歩を。今から。



## プロフィール

1985(昭和60)年10月21日生まれ。ペルシャ出身。8歳の時に養母と共に来日。高校時代から芸能活動を始め、J-WAVEでラジオDJデビューし、俳優、タレント、キャスターとしてTV、ラジオ、映画、舞台と活動中。現在、進行役を務める「探検バクモン」(NHK総合)のほか、「世界番付」(日本テレビ)、「スーパーJチャンネル」(テレビ朝日)、「ノンストップ! いいものプレミアム」(フジテレビ)「サヘル・ローズのイチオシNIPPON」(BS12 Twelliv)などレギュラー出演中。夢はオスカー像をとれる役者になること。

# 県内の在留外国人の 居留状況



グローバル化が進む現在、県内では多くの外国人県民が生活しています。言語、宗教、習慣等の違いを受け入れ、互いに尊重し合うために、私たちはどのような意識を持てばいいのでしょうか。

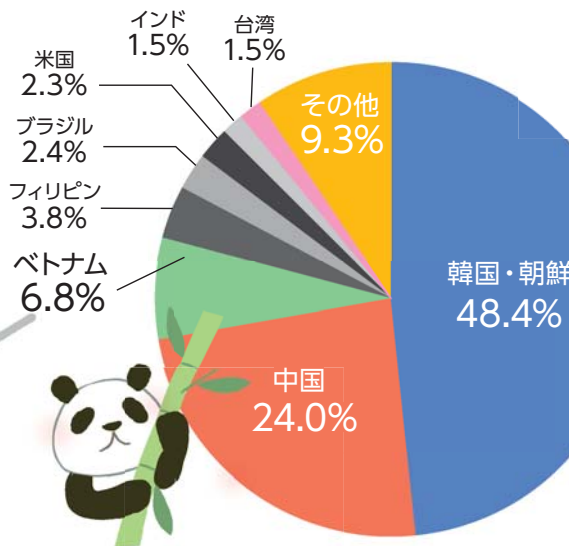
文化等の多様性を認め合い、共に生きていくまちづくりについて考えてみましょう。

現在世界にある国の数は195。それぞれに特有の文化や風習があります。2014年の法務省の統計によると、<sup>※</sup>県内には145か国、96,530人の在留外国人が暮らしています。たくさんの方や地域から日本にいられていることがわかります。

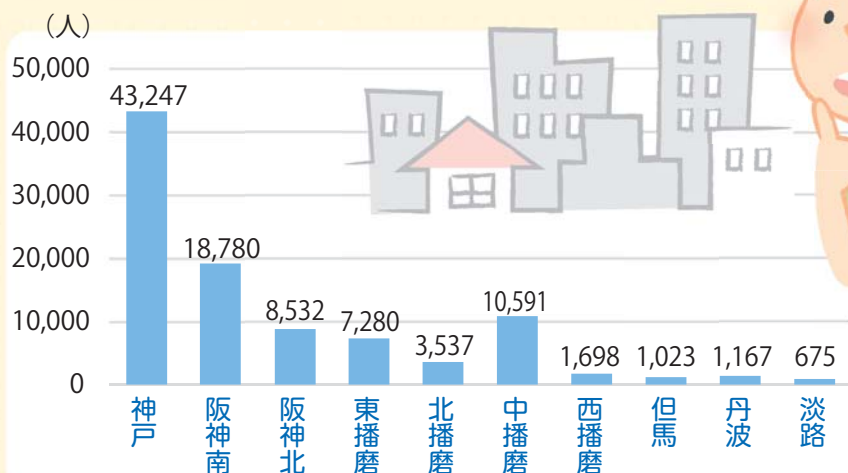
県内の在留外国人の居留状況について、国籍(地域を含む)別の割合(上位8カ国)と地域別人数を見てみましょう。

※2014(平成26)年12月法務省調べ

県内の  
在留外国人の  
国籍地域別の  
割合  
(上位8か国)



県内地域別の  
在留外国人人数



県が平成25年に実施した「人権に関する県民意識調査」によると、外国人に関する人権問題として、「文化や生活習慣の違いが受け入れられなかったり、その違いからいやがらせを受けること」(30.6%)、「就職・職場で不利な扱いを受けること」(26.9%)、「病院や施設などで外国語の表記などの対応が不十分であること」(26.7%)などについて、みなさんの関心が高いことがわかります。

# 人、木石にあらねば

ひと ぶく せや

お茶の水女子大学 名誉教授

みやじま たかし  
宮島 喬さん

でしょうか、遠慮からでしょうか。だが、こういう流儀はやめたほうがよいと思います。

外国人の滞在者、旅行者と街なかで行き会ったことが増えました。また隣家が外国人という読者の方もいるでしょう。同じ人間同士なのだから、何かのサインを送るよう心掛けたいものです。言葉をかけること、眼で会釈すること、それは、相手に何の敵意ももたないことを示すと同時に、「同じ人間であること」への信愛のメッセージを意味します。先方からも必ず言葉や微笑みが返され、「同じ人間」との相互確認が可能になります。一部の日本人がヘイトスピーチなる逆メッセージを外国人に送っている昨今ですが、そうした出会いの経験を重ねることこそ、国籍、国境を越えて「同じ人間」と感じられるための第一歩ではないでしょうか。

朝の散歩の際、向こうからやってくる初見の通行人の方々に、「お早うございます」と挨拶しようかと思いつき、「しかしここは日本……」と考え、ぐっと抑えてしまいます。ところが、欧米やラテン系の国に暮らすと、だいぶ違う。大勢の人がその場にいる場合は別として、人と人が出会えば、何らかの挨拶を送るのは当然です。「おはよう」もあり、会釈、目礼もあり、かすかな微笑みもある。必ず何かのサインが送られ、送り返すのです。また、触れ合う際に互いの眼をみつめることも大事であり、友人同士ではもちろん、そうした眼差しの歓待を受ける点では、空港の案内係、パン屋の店員、スーパールのレジ係も違いはありません。この心の通い合いが、私にとって海外生活の醍醐味の一つです。

日本に帰ってくると、人々は物静かで、丁寧ですが、何か欠けていて淋

しく感じます。それは、今述べた挨拶と眼差しの違いでしょう。ホテルの廊下で人と行き会い、目礼をしようとしても、ふいっと目を逸らせて通り過ぎてしまう。飲食店でウェイターが注文の品を運んできても、当然のことと、無言でいるのが日本流のようです。フランスのある店で、ウェイターが運んできた料理をいきなりパクつき始めたわが子に、「人からサービスしてもらったら、まず『メルシー』と言わなければ駄目！」と母親が厳しく叱っていたのが思い出されます。

「人、木石にあらねば」という句があります。人間は、木や石とちがいで、心（ハート）をもった存在なのだということですが、とすれば、人間に対しては人間として振る舞うべしということでしょう。人と会っても目を逸らして通り過ぎる、無言を通し人の行為にも反応を表さない……シャイだから

## プロフィール

1940(昭和15)年、東京都生まれ。東京大学文学部卒業、東京大学大学院社会学研究科博士課程中退。1973(昭和48)年よりお茶の水女子大学助教授。同教授、立教大学教授、法政大学大学院社会学研究科教授を歴任。他に日本学術会議連携会員などを兼ねる。『多文化であることとは新しい市民社会の条件』(岩波現代全書)等著書多数。



# 違いを認め、互いの人権を 尊重することの大切さ

## 人権は新しいステージへ

年末になると日本のあちこちで「人権尊重」の言葉を見かける。12月10日が世界人権デーで、この日までの1週間は人権週間と定められている。この時期は、全国で一斉に人権にまつわる催し物が開催される。私なども講演の依頼で出かけることが多い。

1948(昭和23)年12月10日の第3回国際連合総会で、すべての人民とすべての国が達成すべき基本的人権についての「世界人権宣言」が採択された。21世紀は「人権の世紀」と言われる。世界人権宣言の採択から数えるとすでに65歳を超えている。人間で言うと前期高齢者で、成熟したお年頃である。

かつての戦争の反省を踏まえて始まった志も空しく、世界中で人権が侵害され、命すら簡単に奪われている。世界のどこかで常に人々が殺し合い、憎しみの連鎖が増幅するばかりである。日本でも人権啓発活動を推進する努力が続けられているにもかかわらず、ヘイトスピーチなどの新たな問題も出てきている。人権の大切さを今以上に、声を張り上げて、訴える必要が必ずある。

私自身も、長年人権活動に取り組んできた1人である。そんな中で強く思うことが一つある。「人権」は、次のステージに移行すべき時期に来ているのではないかと、ということである。そのことが現在まで、長年の努力が続けられても、なかなか結果に結びつかなかったことを画期的に解決してくれるのではないかと考える。

## 三方よしの新しい人権

「人権」はどこか他人事になっていたのではないだろうか。人権イベントに集まる大多数にとっての人権は、「他者のための人権」、「自分には関係ない人権」だったのではないだろうか。例えば、舞台上で喋る外国人の話や、聞いている会場の人々は、外国人のために出来ることを考える。そこには、自分にとつてのメリットはない。

相手のための、他者のための人権という無意識の気持ちや、多数派を人権に対し義務的にさせてしまい、活動に参加することも、腰を重くさせたのではないか。人権の集いの人集めに苦労する多くの主催者の話を聞いた。

無言のまま同様で、誰しもが侵害されてはならない人権があるという

羽衣国際大学  
現代社会学部 教授  
にしやんたさん

メッセージを掲げた取り組み、これは引き続き行う必要がある。しかし、人権が成熟した今は、そこで留まることなく進化する必要がある。つまり、「人権の世紀」の人権は、他者のためだけのものではない。自分のためでもある。いや、むしろ自分のためであることを強調すべきである。

新しい時代の「人権」の定義は、我々の周りにある違いを自分の中に取り込むことによって、自分自身が、強く、やさしく、しなやかに、美しく、豊かになる「人としての自分の権利」、それが「新時代の人権なのである。近江商人は持続可能な組み合わせを「三方よし」と言つ。人権も「三方よし」でなくてはならない。「手前よし」、「相手よし」、「世間よし」である必要がある。その組み合わせで、初めて人権も持続可能になっていく。繰り返しになるが、人権は自分のためであるという発想はもつとも大事である。

阪神・淡路大震災で産声をあげた多文化共生から20年、その誕生日兵庫県に對して、日本が共に笑えるためのメッセージとして活躍することを今後とも大いに期待したい。

## プロフィール

1969(昭和44)年、スリランカ生まれ。経済学博士。高校生のとき、ボーイスカウトで初来日。その翌年に留学のため再来日をし、立命館大学に入学。新聞奨学生をしながら勉学に励む。2005(平成17)年日本国籍取得。

現在、多民族共生人権教育センター理事を務める。社会人落語家、全日本空手道連盟公認四段を取得するなど幅広く活躍。著書に『日本で知った「幸せ」の値段』(講談社)等がある。





NPO法人  
にほんご豊岡あいうえお  
(豊岡市)

## 外国人住民の 自立を支援

豊岡に住む外国人は約500人。その多くの人が言葉や習慣について不安を抱えています。

NPO法人「にほんご豊岡あいうえお」は、多文化共生を柱とし、外国にルーツを持つ人々の日本語能力の向上、生活支援、地域コミュニケーションの促進などを行っています。

### 学習者に寄り添って

長年、地域で活動していたボランティアが「日本で外国人が生活するためには、日本語を習得するだけでなく、生活全体の支援が必要」との思いを共有する者

が集まり、平成24年に「にほんご豊岡あいうえお」を立ち上げました。ボランティアの中には、日本語教師や多文化共生マネージャーがいます。

教室は、週一回のグループレッスン。個人の習熟度、目標に合わせて柔軟にクラスを編成しています。日本語はもろろん、文化や習慣などについても取りあげます。但馬ならではの風雪災害への備えや避難についても学びます。子ども向けには、学習支援のクラスも開設しています。学習者の一人中国出身の松本美海さんは、不安で食事ものごを通らなかつた経験を振り返りながら、「いつも優しく対応してくれるスタッフに感謝している。教室で出会った同じ立場の人たちとのつながりも励みになった」と話します。

### 不安を取り除くために

「病院に行きたいけれど…」など事務局には、時間を問わずに相談が飛び込みます。相談者にとつて、全く知らない人に個人的な相談をするのは不安なもの。多くの方が、普段から接しているボランティアスタッフを頼っています。スタッフは同じ地域に住む主婦の目線でアドバイス。ボランティアとしての対応が難しい内容であれば、行政や専門機関について支援を求めていきます。

これまでにも、不安を軽減できるようなアイデアを形にしてきました。たとえば、子育て家庭にとつて、学校の様子がわからないことは不安です。そこで、学校からの通信を読むためのコツをやさしい日本語で紹介したテキストを作成。複数

の言語で翻訳した解説も加えました。翻訳は、学習者が協力しました。

平成27年からは、子育てに必要な日本語や知識を学んだり、必要な情報を提供したりするための「子育てネット」をスタートさせ、育児をがんばる方々を支援していきます。

### 対等な関係をめざして

「地域になじむことが、本当の自立につながる」との考えから、地域に住む人をイベントに招くなど、地域の方と学習者が顔見知りになる工夫をしています。だれもが気軽に立ち寄れる居場所として、「あいうえお茶会」なども開催し文化の違いを尊重し、お互いを思いやる雰囲気地域全体に生まれています。

国籍に関係なく、同じ地域に住む住民の一員として、お互いに助け合つて暮らしていけるようになることをめざし、取り組みが広がっています。



学習者の居住地により、通いやすい場所で教室を開催。参加費は会員月額500円(年会費3,000円)、非会員月額1,000円。開所時間は、10:00~17:00(教室は21:00まで)。ボランティアスタッフ・賛助会員募集中。

TEL0796(20)4037  
豊岡市昭和町2-50 河本ビル102

漢字クラスの様子。漢字の書き方や読み方について丁寧な説明を受け、習った言葉を使って、作文します。



## 子ども多文化共生教育の推進拠点 子ども多文化共生センター

「子ども多文化共生センター」は、外国人児童生徒の自己実現を支援するとともに、すべての児童生徒が互いの「違い」を「違い」として認め合い、多様な価値観を受容しながら、共に生きようとする意欲や態度をはぐくむ、子ども多文化共生教育を推進するために活動しています。

**外国人児童生徒等に関する教育についての相談は、お気軽にお問い合わせください。**

〒659-0031 芦屋市新浜町1-2 (県立国際高等学校内)

電話:0797(35)4537 FAX:0797(35)4538 電子メール:mc-center@hyogo-c.ed.jp

- 利用時間：平日(月曜日~金曜日) 9:00~17:00
- 閉館日：土・日曜、国民の休日、年末年始

- 教育相談：電話相談  
面接相談  
メール相談

- 開館日の9:00~17:00の間  
予約制  
※必要に応じて通訳をご用意いたします。  
上記アドレスへ。

# 性同一性障害への理解を深める

性同一性障害とは？

性同一性障害(トランスセクシュアル、トランスジェンダー)とは心の性(性自認)と身体の性が一致せず、性別違和感を持つ状態です。心は男性で身体は女性の場合をFTM、心は女性で身体は男性の場合をMTF、また、心の性が不確定、流動的、男女のどちらにも属さない等の場合は、Xジェンダーとも呼ばれます。心の性を無理に変えようとする、うつや自殺につながります。

日本精神神経学会の調査では、全国で1万8千人が医療機関で受診していると推定していますが、未受診者も含めると、その何倍も存在し

## きずなトピック

岡山大学ジェンダークリニック 医師  
GID(性同一性障害)学会 理事長  
岡山大学大学院保健学研究科 教授

なか つか みき や  
中塚幹也さん

ていると考えられています。

### 子どもの頃の性同一性障害当事者

中学生の頃は、二次性徴による身体の変化に制服や恋愛の問題が加わり、自殺念慮(自殺したいと思うこと)、自傷行為、不登校が高率になります。文部科学省も学校での対応を充実するように通知しています。また、日本でも、二次性徴を一時的に止める治療をし、その間に慎重に診断することも承認されています。

### 性的マイノリティと日本社会

世界的には、「病気ではない」という思いを込め、「性同一性障害」は「性別違和」と呼ばれつつあります。日本ではホルモン療法や手術療法は自費診療ですが、これらが保険適用となるなど、社会の受け入れ体制が整った時には、日本でも敢えて「障害だ」と言わなくてもよい日が来ると思います。

手術を受けて戸籍の性別変更をした性同一性障害当事者が結婚し、第三者の精子提供により妻との間に子どもを持った例では、2013年12月、最高裁は、「父親と認める」と

## プロフィール



岡山大学ジェンダークリニック結成時(1998年)のメンバー、産婦人科医として、性同一性障害の診断、ホルモン療法、手術療法に従事。2010年より、GID(性同一性障害)学会理事長、2014年度、文部科学省「学校における性同一性障害に係る参考資料作成委員会」委員。著書には、「学校の中の「性別違和感」を持つ子ども：性同一性障害の生徒に向き合う(2013年)」など。

の判決をしています。また、里子や特別養子が認められ、家族を持つことができた当事者もあります。

2015年3月、東京都渋谷区で、同性カップルの「パートナーシップ証明」発行が認められました。病院で面会時や一緒に住む部屋を借りる時に、家族ではないとして断られることもなくなるのが期待されます。

徐々に、支援者(アライ・アレー)も増えてきています。あなたも、周囲に困っている方がいれば、話を聞くことから始めてみてはいかがでしょうか。

## 新着図書紹介

書籍 まんが  
クラスメイトは外国人  
はじめて学ぶ多文化共生



著者 「外国につながる子どもたちの物語」編集委員会 編  
まんが みなみ ななみ  
発行所 明石書店

学校だけでなく、地域や職場でも外国人と接する機会が増えています。日常的な関わりの中で他者と出会い、理解し合い、謙虚に学び合うという姿勢は、相手を問わずに必要なものです。

本書は、外国にルーツを持つ子どもたちと同級生、教師、支援者の関わりを日本人の子ども視点で交えて描いています。多文化共生についてわかりやすく伝えるための「入門編」として編集されました。

期待と不安を胸に中学校に進学した翔と歩夢が、ブラジルや中国など様々な国にルーツを持つ友達と出会い、彼女らと共に、時には泣き、笑い、悩み、考えながら、少しずつ成長していきます。登場人物とともに多文化共生について、考えてみませんか。

姉妹本として『まんが クラスメイトは外国人 多文化共生20の物語』があります。

# ひょうご・ヒューマン フェスティバル2015

入場  
無料

inこうべ を開催

**日時** 8月8日(土) 9:30~15:30

**場所** 兵庫県立文化体育館  
神戸市長田区蓮池町1-1

**TEL** 078(631)1701

**アクセス** ※公共交通機関をご利用ください。

- ・山陽電気鉄道「西代駅」下車すぐ(阪急・阪神・神戸高速鉄道接続)
- ・JR・神戸市営地下鉄「新長田駅」下車北へ500m(徒歩8分)
- ・神戸市営地下鉄「長田(長田神社前)駅」下車西へ400m(徒歩7分)

8月は「人権文化をすすめる県民運動」推進強調月間です。兵庫県では、市町と一体となって啓発活動を行っています。楽しい催しが盛りだくさん。ご家族、ご友人をお誘い合わせの上、ぜひお越しください。

**【出演者】**

開会宣言/伊東浩司  
(ひょうご人権大使)

人権講演会「OH!家族 ジェフ・バーグランドと考える家族と子育て」/ジェフ・バーグランド氏(京都外国語大学教授・タレント)

■キャラクターショー

「手裏剣戦隊ニンニンジャーショー」

■ファミリーシネマ

「アナと雪の女王」(9:30より先着順で整理券を発行)

人権啓発ビデオ「あなたに伝えたいこと」

■他に、パネル展、スタンプラリー、アングルン オーケストラ、中高生ソダンの会、御影ジャズランチクラブ、Hug Hug Mommy-Go! によるステージ発表、出店など

**問い合わせ先** 公益財団法人兵庫県人権啓発協会

神戸市中央区山本通4丁目22-15 県立のじぎく会館内 TEL.078(242)5355

イベントガイド

<p><b>加東市</b> 人権啓発講演会</p>	<p><b>日時</b> 7月11日(土) 13:30~15:30 <b>場所</b> 東条文化会館 ※中国自動車道東条インターチェンジから車で約5分 ①小学生児童による作文の朗読 ②社会を明るくする運動の内閣総理大臣メッセージの伝達式 ③演題「いのちをいただいて、つなぐこと」●講師 内田美智子さん(内田産婦人科医院助産師)</p>	<p><b>問い合わせ</b> 加東市人権教育課 TEL 0795(43)0544</p>
<p><b>神戸市</b> 心かよわす 親子映画大会 ~「人権の大切さ」について親子で一緒に考えてみませんか~</p>	<p><b>日時</b> 8月13日(木) 10:00~12:40・13:30~16:10 <b>場所</b> 神戸文化ホール(大ホール) ※神戸市営地下鉄西神・山手線「大倉山」駅から徒歩1分 上映映画「モンスターズ・ユニバーシティ」と「小学生のためのケータイ・ネット教室」対象者 小中学生とその保護者(各回2000名) ※参加費無料(申込不要)、各回上映の1時間前より整理券を発行</p>	<p><b>問い合わせ</b> 神戸市保健福祉局 人権推進課 TEL 078(322)5234</p>

インターネット動画配信中「人権文化をすすめる県民運動」の様様を更新しました!

人権に関する川柳を募集します!

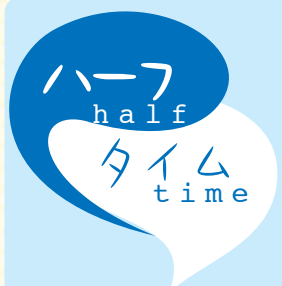
いずれかのテーマに当てはまる川柳を募集します。優秀作品は「きずな」に掲載し、オリジナルクリアファイルをプレゼント。

**募集テーマ** 高齢者、職場、ネット社会

**応募方法** はがきか、ファクス、メールで受け付け。郵便番号、住所、名前(ペンネームの場合も併記)、年齢を明記のうえ、ご応募ください。8月3日(月)締め切り。(応募はお1人1点とします。)

インターネット上を含む未発表・未投稿の自作の作品に限ります。

**応募先** (公財)兵庫県人権啓発協会(下記参照)



取材で訪れた「にほんご豊岡あいうえお」。にこやかで温かい雰囲気のある教室ですが、授業が始まるとその雰囲気は一変。学習者の姿勢は真剣そのものです。言葉を身につけなければという、切実な思いを感じました。

特に印象的だったのは、県境を越えて通ってくる親子。「生活のことなど細かく支援してくれるスタッフや仲間との出会いで生活が好転した」と感謝の言葉を繰り返していました。今では地域に溶け込み、地域の担い手として期待されています。日本のこれからの共生モデルに触れた気がしました。(小池)

「きずな」は、協会ホームページからもご覧になれます。